中学校
１年

詩を創作しよう

摂津市立第五中学校

教科	国語	単元名	読みを深め合う

本時のねらい

教科書の詩を読むことで、学習した表現技法や、自分たちが普段使っている方言の特徴を生かして方言詩を創作し、音声録音も活用し交流することで、表現の特徴や効果について考えを深める。

本時における１人１台端末の活用方法とそのねらい

イヤホンマイクを用いって、創作した詩に自分の声での朗読を録音して交流する。単に創作するだけでなく、その詩に込めた想いや工夫を朗読とともに共有する。それにより方言の特徴を生かしてより効果的に表現し、友だちの詩を読んで表現の効果を考えることができる。朗読録音を家庭での宿題にすることによって、それぞれのタイミングで録音することができた。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・ タブレット端末（iPad）　・イヤホン　・ ロイロノート

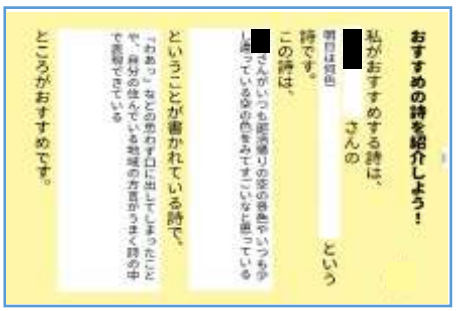
本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 （１０分）	○詩の推敲をする。 ○本時のめあてと単元のゴールを確認し、学習の見通しを立てる。	・書き直しや録音のし直しが可能であるため、自分で確認する時間をとり、よりよい作品を追究することができる。 ・単元の計画をロイロノートで配付することで、学習の流れを常に確認することができる。
展開 （３５分）	○友だちの詩を朗読を聴きながら読み味わう。 ○読んだ詩の中からおすすめの詩を選び紹介文を書く。 ○選んだおすすめの詩をペアに見せながら紹介する。	・自分のペースで詩を味わい、ロイロノートのメモ機能を活用することでおすすめの詩を選ぶことができる。 ・紹介される側も詩を読みながら紹介を聞くことができる。
まとめ （５分）	○詩を創作する上での表現の工夫を振り返る。	

１人１台端末を活用した活動の様子

表現技法を学習する際に、実際の歌詞で使用されている部分を示す。（音源付き）

各自、詩を創作する。（録音付き）



詩を（朗読も含めて）味わった後、おすすめの詩を紹介する。

児童生徒の反応や変容

・何度でも修正が可能なため、よりよい詩を創作しようと書き直したり録音し直したりして取り組む姿が見られた。
・友だちの詩をただ読むだけでなく、録音も含めて味わい、友だちが工夫したところも考えながら読むことで、表現の工夫を捉えようとするなど意欲的に取り組んでいた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

・録音音声を活用することで、表現の工夫の幅が広がり、興味持って取り組ませることができる。
・創作した詩と、工夫した点を見比べながら確認することができるので、より丁寧な評価を行うことができる。